

JVCケンウッド 決算説明資料

2020年3月期 第2四半期 (IFRS)

2019年11月1日

株式会社JVCケンウッド

事業内容

* 本資料の数値は全てIFRS（国際財務報告基準）となっています。

メディアサービス分野（MS）

■メディア事業

- ・ソリューション／ライフスタイル／ブランド
ビデオカメラ、ヘッドホン、プロジェクター、
ホームオーディオ、映像デバイス など

■エンタテインメント事業

- コンテンツ／受託ビジネス

パブリックサービス分野（PS）

■無線システム事業

- 業務用無線、アマチュア無線、
無線システム機器 など

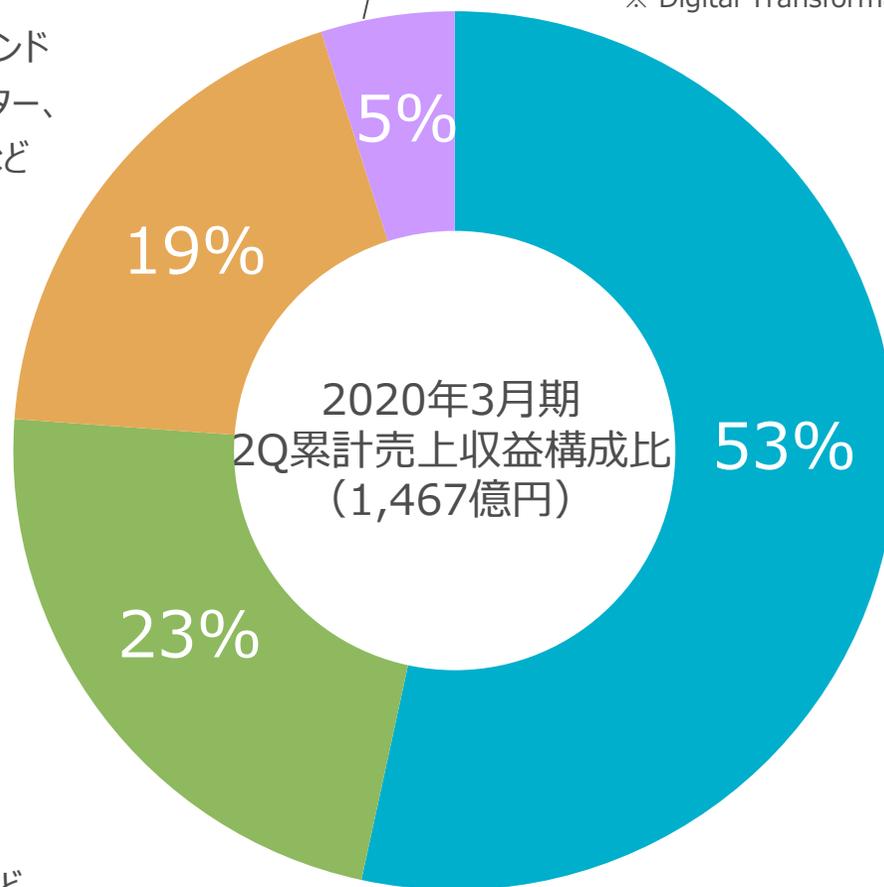
■業務用システム事業

- ・JVCケンウッド・公共産業システム
監視カメラ、業務用放送機器 など
- ・ヘルスケア領域
医用画像表示用モニター、エクソソーム解析システム、
ゲイズファインダー など

その他

■DX※ビジネス など

※ Digital Transformation



オートモーティブ分野（AM）

■アフターマーケット事業

- ・カーナビゲーション
- ・カーオーディオ
- ・ディスプレイオーディオ
- ・ドライブレコーダー など

■OEM事業

- ・カーナビゲーション
- ・ディスプレイオーディオ
- ・ドライブレコーダー
- ・車載用カメラ
- ・車載用CD／DVDメカ
- ・車載用光ピックアップ
- ・車載用スピーカー
- ・車載用アンテナ
- ・車載用アンプ など

1. 2020年3月期2Q決算概況

2. 2020年3月期 通期業績予想

3. 主な取り組み

1. 2020年3月期2Q決算概況

2. 2020年3月期 通期業績予想

3. 主な取り組み

2020年3月期2Q決算ハイライト

- 売上収益は、全社では減収も為替影響を除くと対前年で100%
- コア営業利益は、AM分野、MS分野が減益となったことから全社では減益
- 営業利益、税引前利益、四半期利益は、コア営業利益の減少により減益

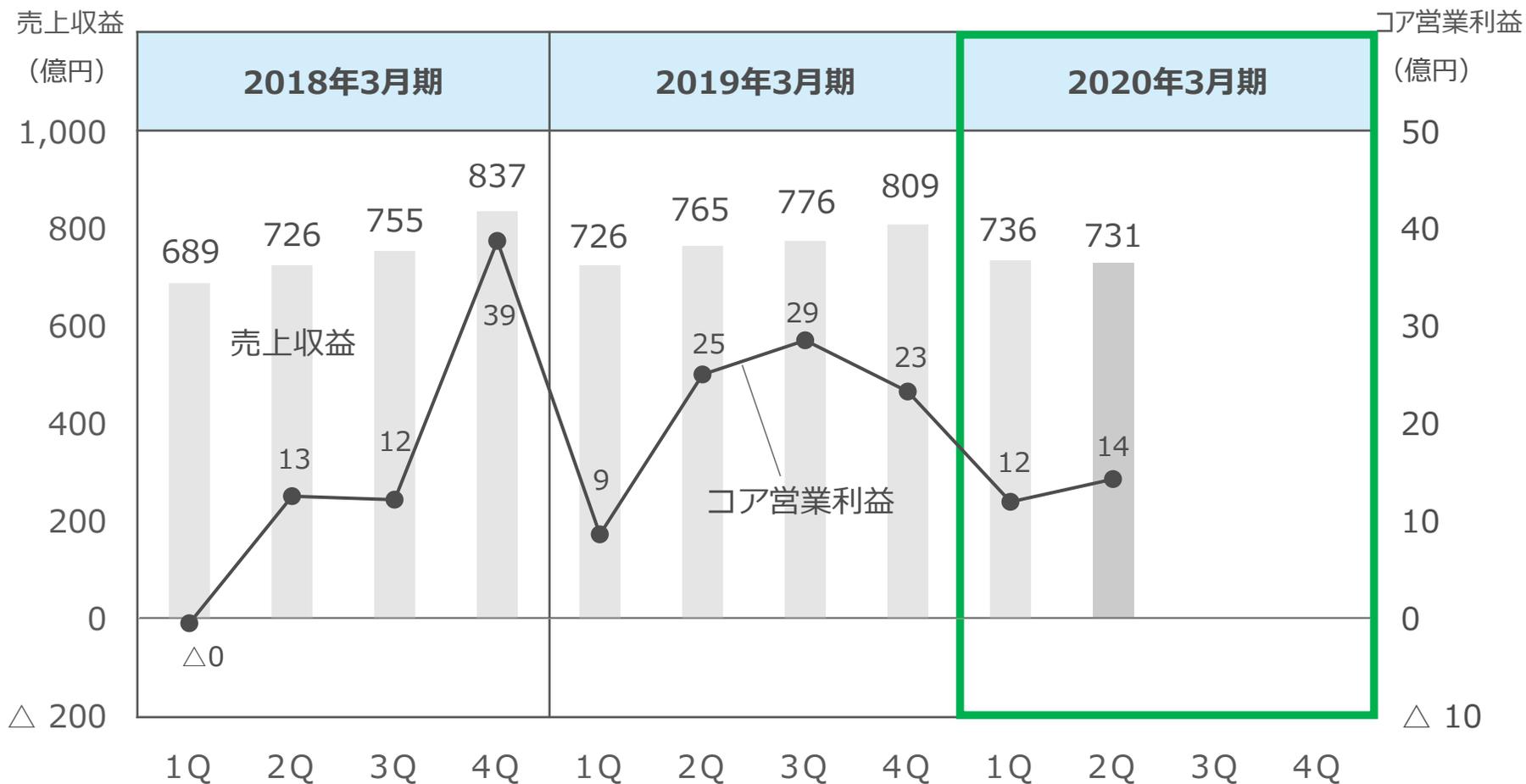
(億円)

| | '19/3期2Q累計 | | '20/3期2Q累計 | | |
|---------------------|------------|---------|------------|---------|------|
| | | 構成比 (%) | | 構成比 (%) | 前期差 |
| 売上収益 | 1,491 | 100.0 | 1,467 | 100.0 | △ 24 |
| 売上原価 | 1,086 | 72.8 | 1,078 | 73.5 | △ 8 |
| 売上総利益 | 405 | 27.2 | 389 | 26.5 | △ 16 |
| コア営業利益 [※] | 34 | 2.3 | 26 | 1.8 | △ 7 |
| 営業利益 | 35 | 2.4 | 32 | 2.2 | △ 3 |
| 税引前利益 | 32 | 2.1 | 27 | 1.8 | △ 5 |
| 親会社の所有者に帰属する四半期利益 | 18 | 1.2 | 12 | 0.8 | △ 6 |

※ 営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの

| | | '19/3期 | | | | | '20/3期 | | | | |
|---------|------|--------|------|------|------|------|--------|------|----|----|----|
| | | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 通期 | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 通期 |
| 損益為替レート | 1米ドル | 109円 | 111円 | 113円 | 110円 | 111円 | 110円 | 107円 | - | - | - |
| | 1ユーロ | 130円 | 130円 | 129円 | 125円 | 128円 | 124円 | 119円 | - | - | - |

2020年3月期2Q決算（四半期別）実績推移



| 損益為替レート | 1米ドル 1ユーロ | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q |
|---------|--------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|----|
| | | 111円 | 111円 | 113円 | 108円 | 109円 | 111円 | 113円 | 110円 | 110円 | 107円 | - | - |
| | | 122円 | 130円 | 133円 | 133円 | 130円 | 130円 | 129円 | 125円 | 124円 | 119円 | - | - |

(億円)

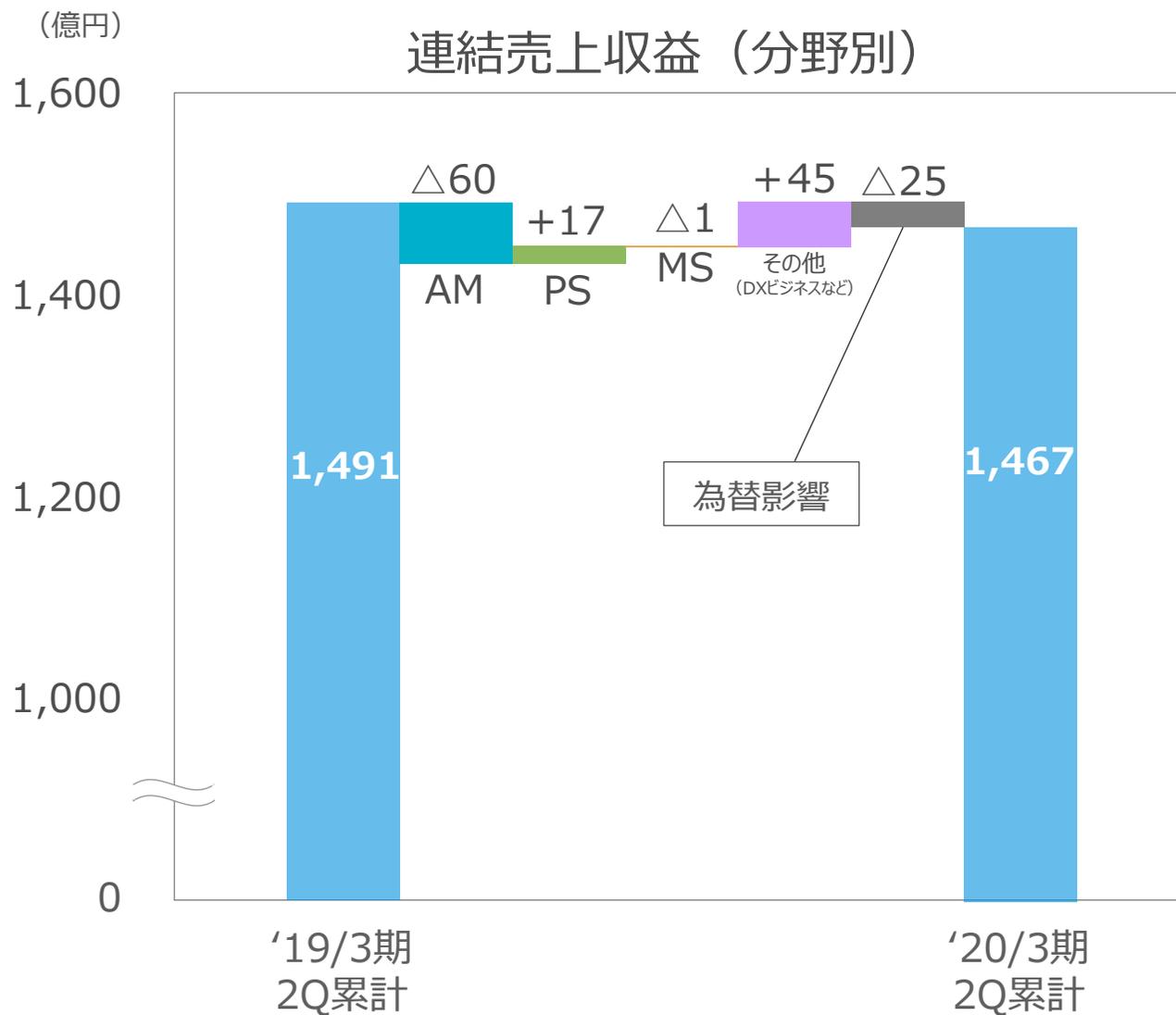
| | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|----|
| 売上収益 | 1,415 | 1,592 | 1,491 | 1,585 | 1,467 | - |
| コア営業利益 | 12 | 51 | 34 | 52 | 26 | - |

2020年3月期2Q決算 分野別の状況

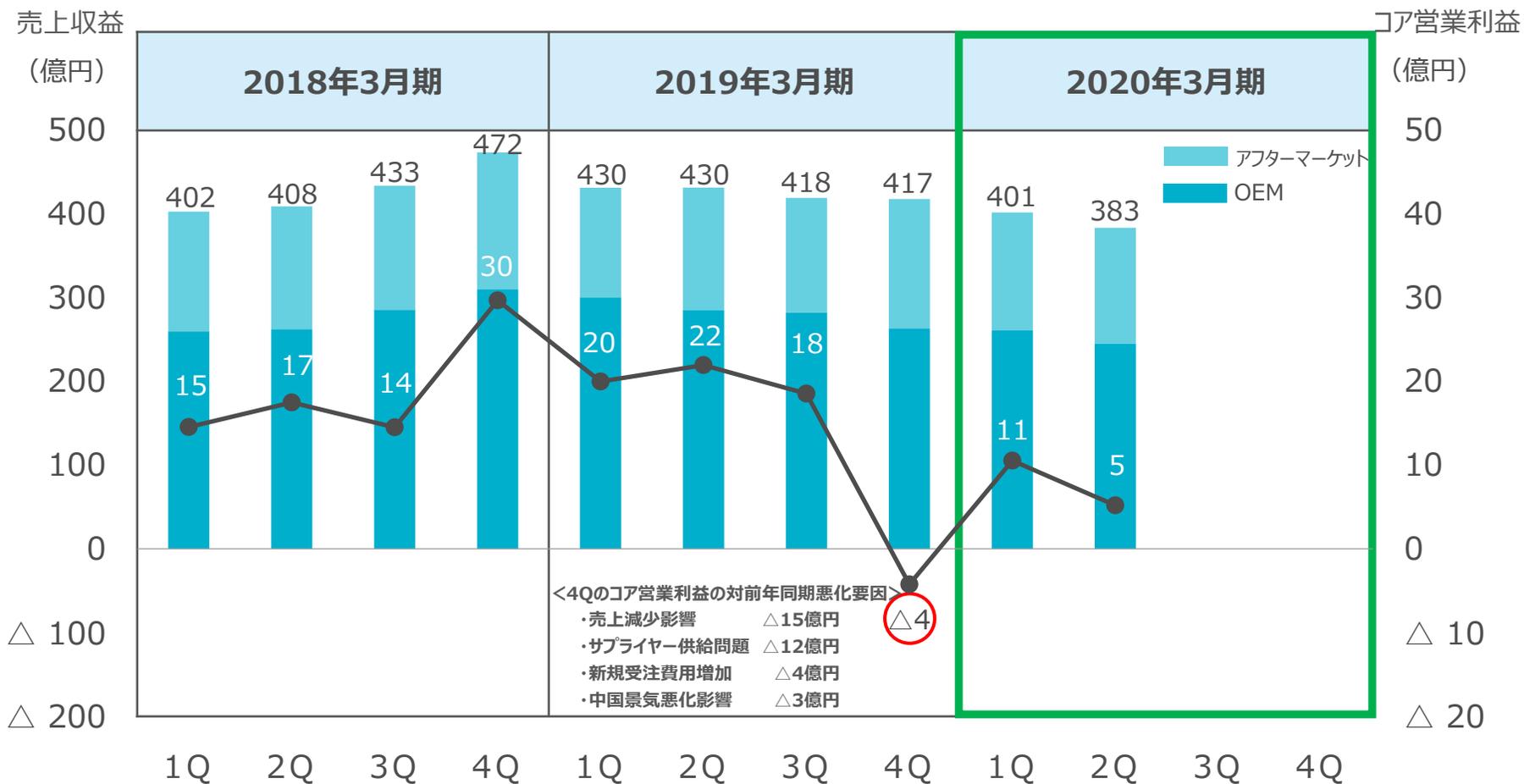
(億円)

| | | '19/3期 2Q累計 | '20/3期 2Q累計 | 増減 | 前期増減率 | 要因 |
|-------------------|--------|----------------|----------------|------|---------|--|
| オートモーティブ | 売上収益 | 861 | 783 | △ 77 | -9.0% | * アフターマーケットは国内市場の好調により増収も、OEMは純正の販売減、中国景気悪化影響を受けたことなどから、分野全体で減収 |
| | コア営業利益 | 42 | 16 | △ 26 | -61.9% | * 減収の影響に加え、OEMでサプライヤーの部品供給問題の影響を受けたことなどから、分野全体で減益 |
| パブリックサービス | 売上収益 | 321 | 334 | +13 | +4.0% | * 米国無線子会社の販売増、業務用システムの販売増などにより、分野全体で増収 |
| | コア営業利益 | △ 14 | 3 | +17 | - | * 増収に加え、原価改善効果が発現したことなどから、分野全体で増益。無線システムは、5四半期連続で黒字を計上し、黒字が定着化 |
| メディアサービス | 売上収益 | 282 | 278 | △ 4 | -1.3% | * エンタテインメントは販売が堅調に推移したこと増収も、メディアはビデオカメラなどの販売減の影響を受けたことなどから、分野全体で減収 |
| | コア営業利益 | 7 | 4 | △ 3 | -36.4% | * メディアが減収の影響を受けたことに加え、エンタテインメントも新分野への投資増などから、分野全体で減益 |
| その他 (DXビジネスなど) | 売上収益 | 28 | 72 | +44 | +156.9% | * テレマティクスソリューション関連の販売が好調に推移したことなどにより、DXビジネスの売上が拡大したことなどから増収増益 |
| | コア営業利益 | △ 1 | 3 | +4 | - | |
| 合計 | 売上収益 | 1,491 | 1,467 | △ 24 | -1.6% | |
| | コア営業利益 | 34 | 26 | △ 7 | -21.7% | |

2020年3月期2Q決算 連結売上収益（分野別）



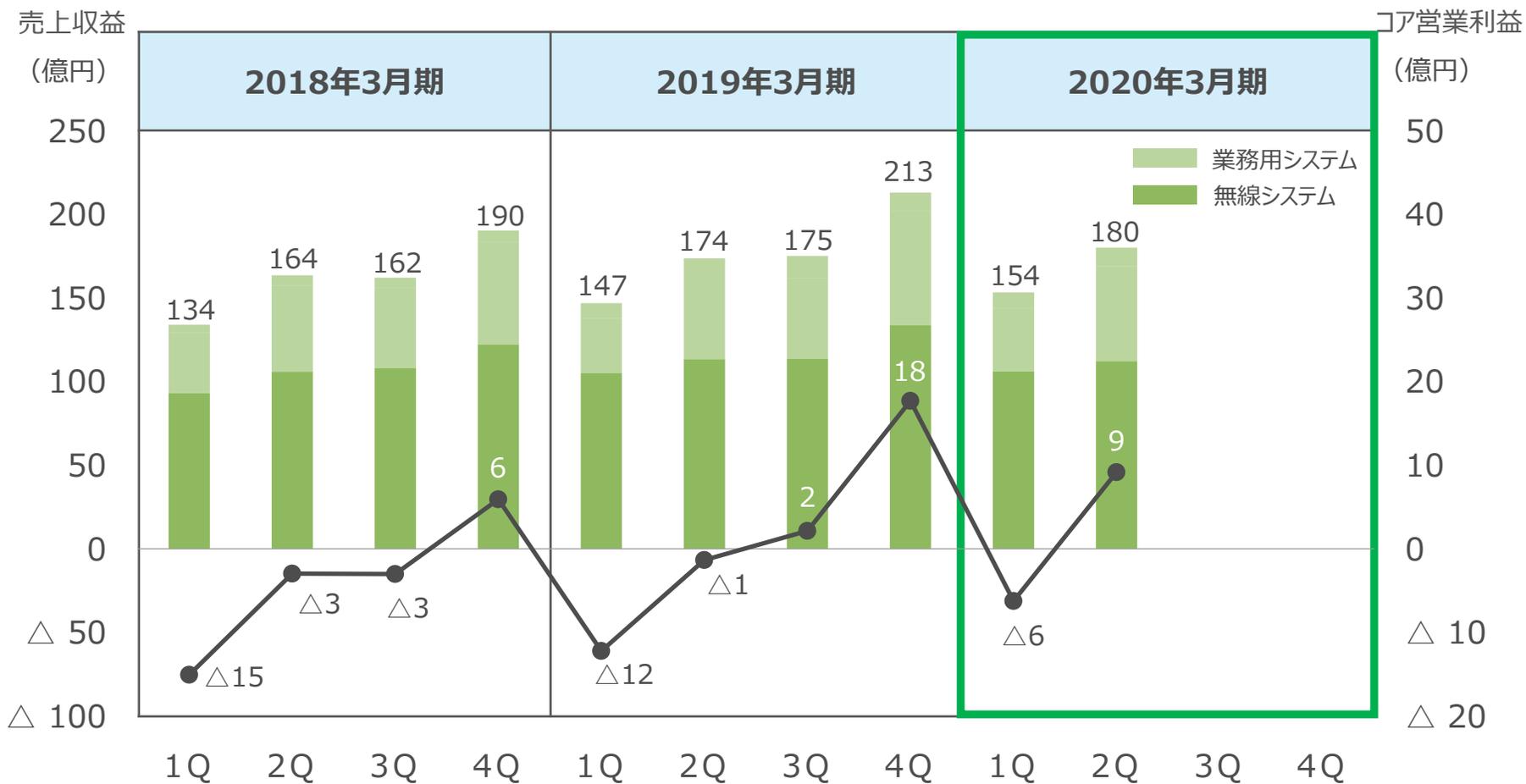
2020年3月期2Q決算 AM分野 四半期別実績推移



(億円)

| | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 売上収益 | 810 | 905 | 861 | 835 | 783 | — |
| コア営業利益 | 32 | 44 | 42 | 14 | 16 | — |

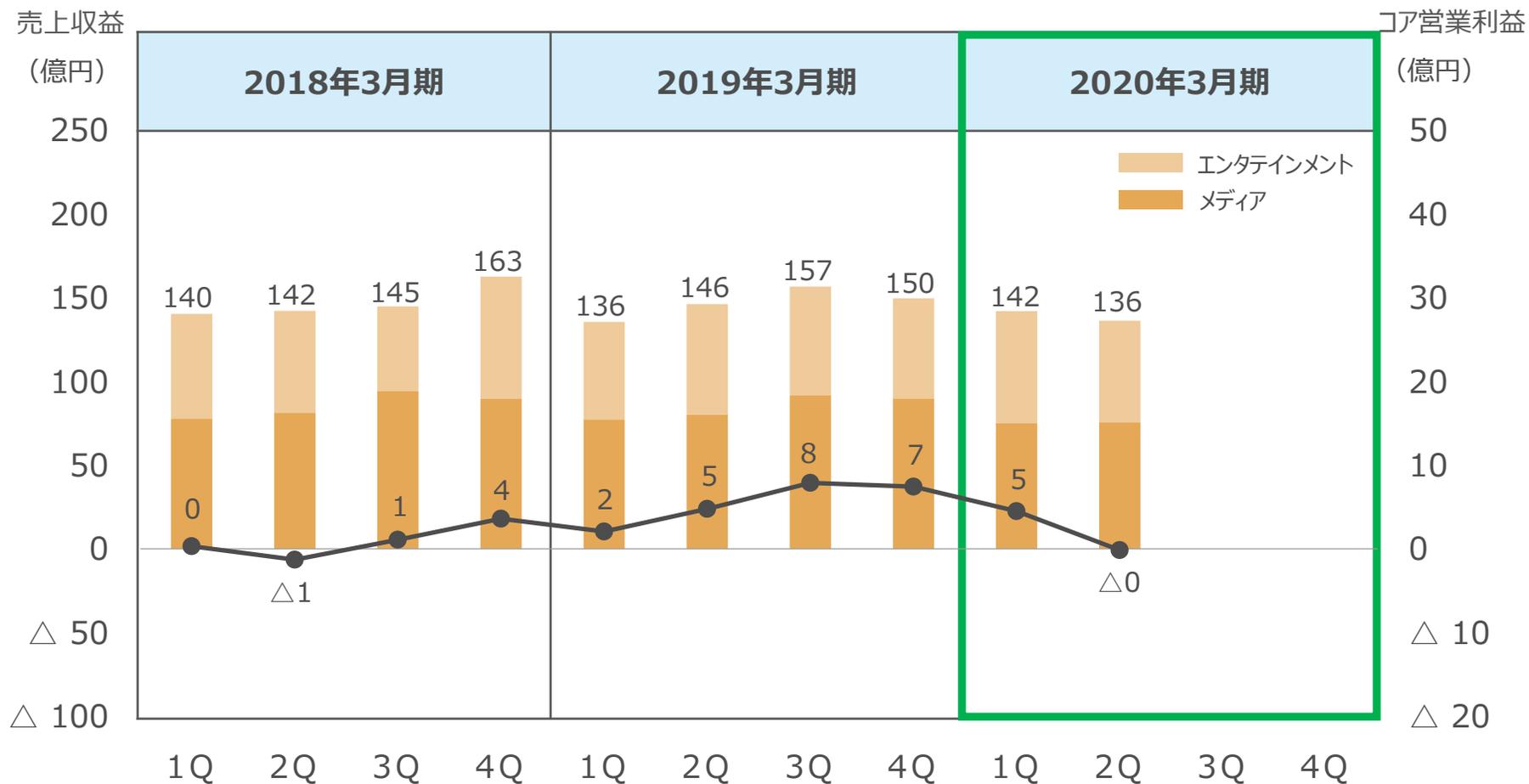
2020年3月期2Q決算 PS分野 四半期別実績推移



(億円)

| | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 売上収益 | 298 | 353 | 321 | 389 | 334 | — |
| コア営業利益 | △18 | 3 | △14 | 20 | 3 | — |

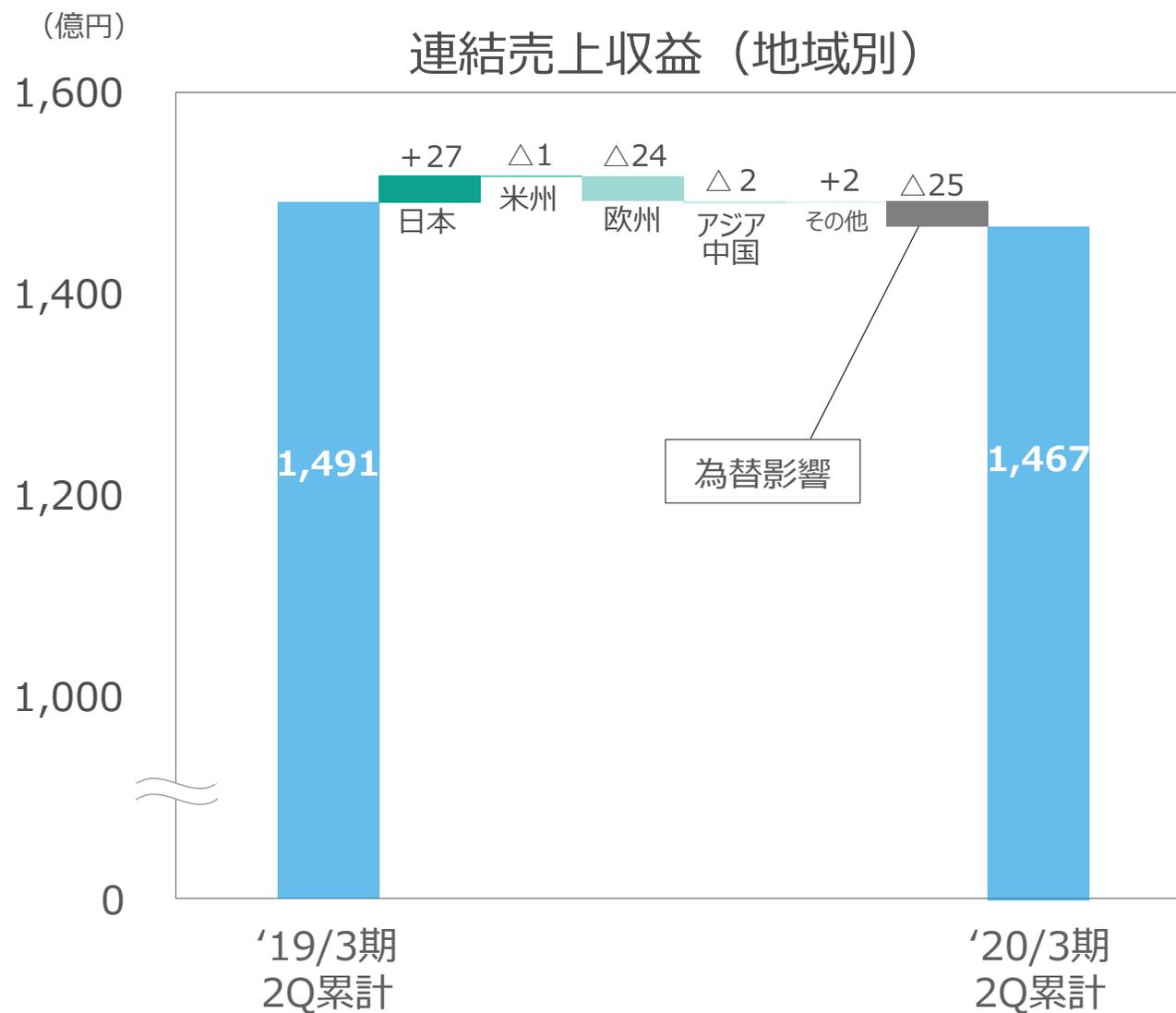
2020年3月期2Q決算 MS分野 四半期別実績推移



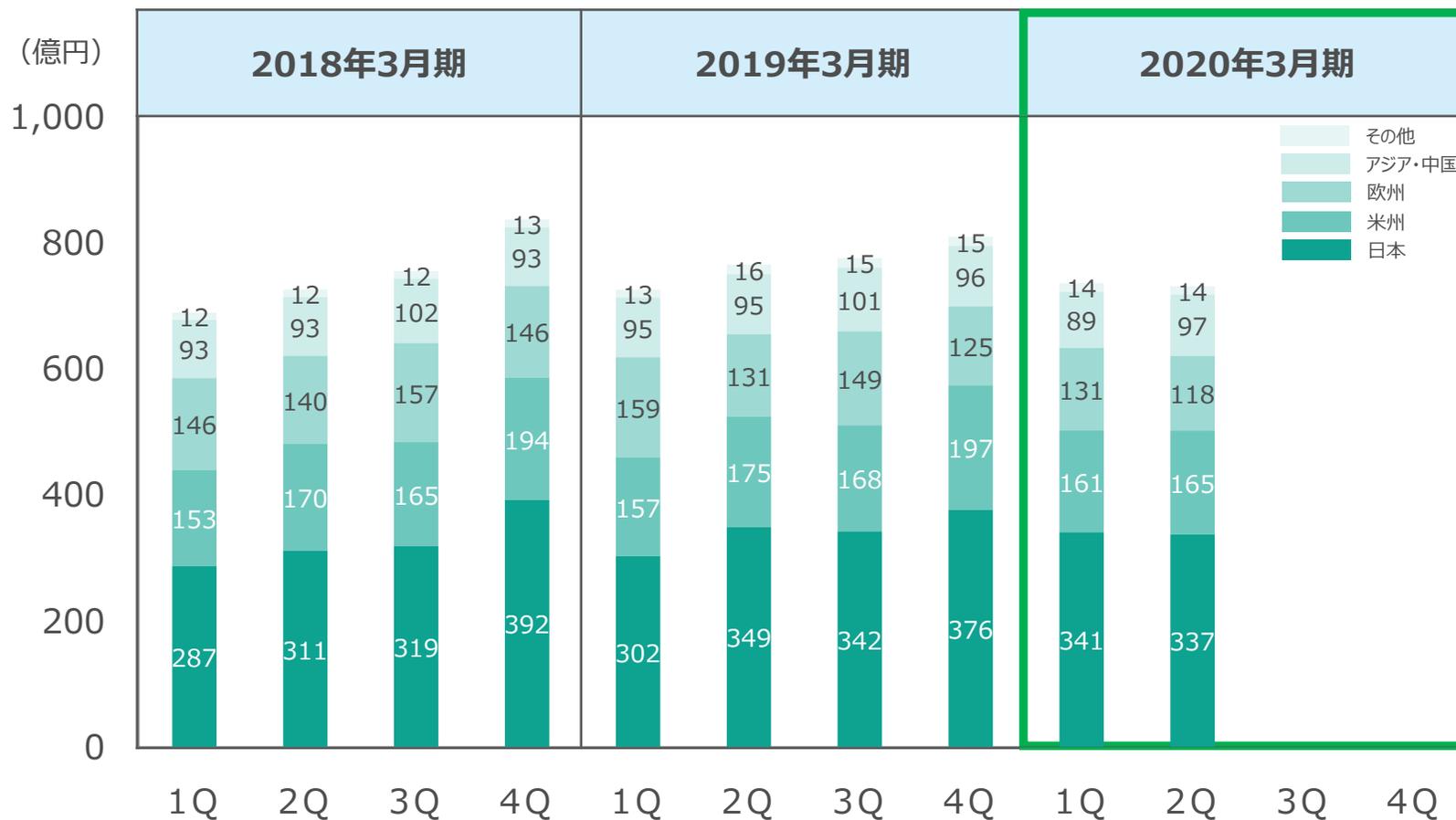
(億円)

| | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 売上収益 | 282 | 307 | 282 | 306 | 278 | — |
| コア営業利益 | △ 1 | 5 | 7 | 15 | 4 | — |

2020年3月期2Q決算 連結売上収益（地域別）



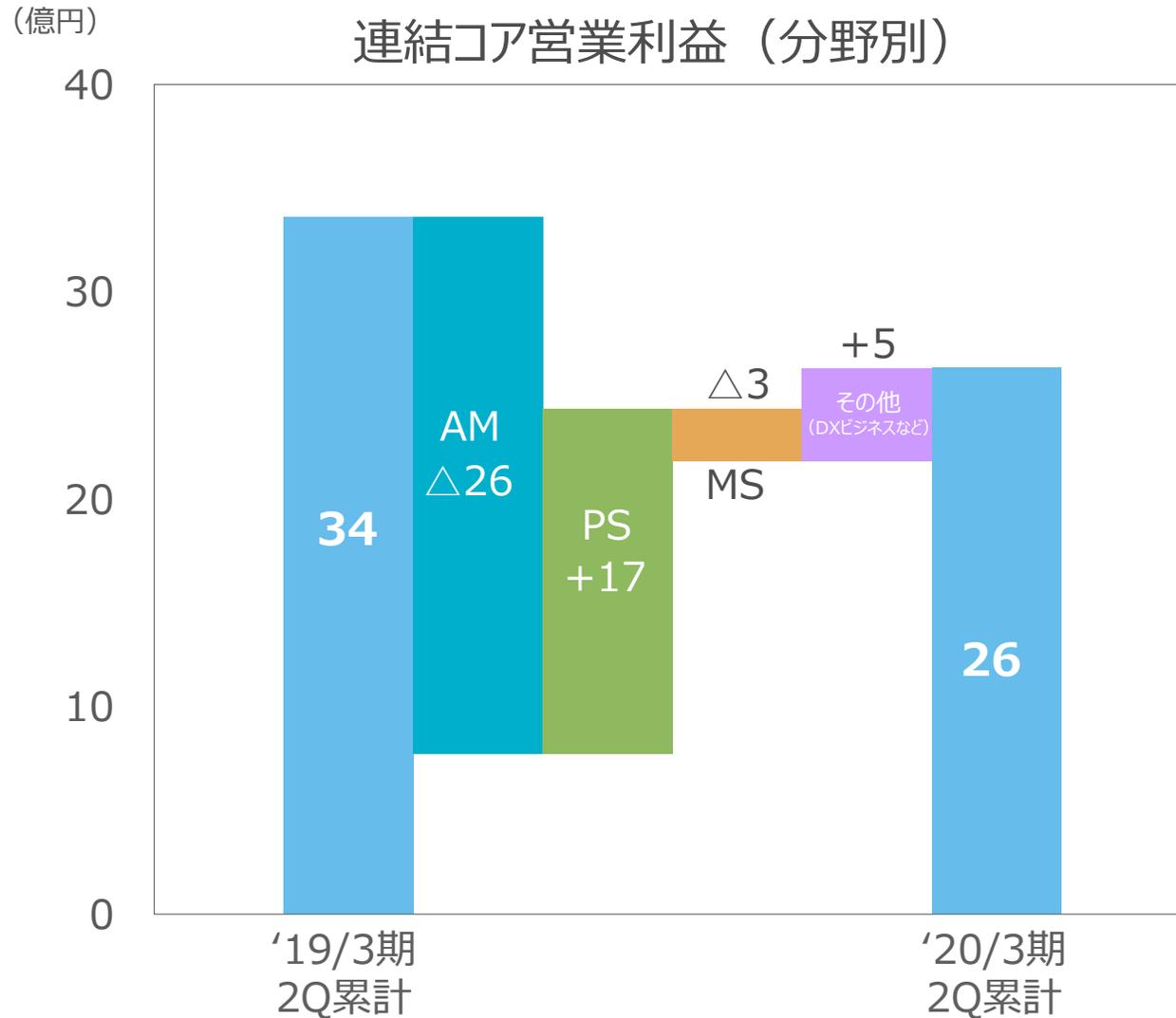
2020年3月期2Q決算 地域別連結売上収益推移



(億円)

| | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 日本 | 598 | 711 | 651 | 718 | 678 | — |
| 米州 | 323 | 359 | 332 | 366 | 326 | — |
| 欧州 | 285 | 303 | 290 | 274 | 249 | — |
| アジア・中国 | 186 | 195 | 190 | 197 | 187 | — |
| その他 | 24 | 25 | 28 | 30 | 27 | — |

2020年3月期2Q決算 連結コア営業利益（分野別）



2020年3月期2Q決算 連結損益（要約）

- その他の収益・費用、為替差損益は、為替差損が減少したことなどから改善

(億円)

| | '19/3期2Q累計 | '20/3期2Q累計 | 増減 |
|---------------------|------------|------------|-------|
| コア営業利益 [※] | 33.6 | 26.3 | △ 7.3 |
| その他の収益・費用、為替差損益等 | 1.4 | 5.4 | + 4.0 |
| 営業利益 | 35.1 | 31.8 | △ 3.3 |
| 金融収支他 | △ 3.5 | △ 4.9 | △ 1.4 |
| 税引前利益 | 31.5 | 26.9 | △ 4.6 |
| 法人所得税費用 | 11.4 | 12.6 | + 1.2 |
| 非支配持分 | 2.5 | 2.3 | △ 0.2 |
| 親会社の所有者に帰属する四半期利益 | 17.6 | 12.0 | △ 5.6 |

※ 営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの

2020年3月期2Q決算 財政状態サマリー

- IFRS第16号「リース」の適用により、20/3期の期初バランスシートにて資産+84億円、負債+98億円、資本△14億円の影響が発生

(億円)

| | '19/3期末 | '20/3期2Q | 増減 |
|------------------|------------------|----------|-----------------|
| 資産合計 | 2,506 (2,590) | 2,554 | + 48 (△36) |
| 負債合計 | 1,853 (1,951) | 1,947 | + 94 (△5) |
| 資本合計 | 653 (639) | 607 | △ 46 (△32) |
| 有利子負債 | 713 | 733 | + 20 |
| ネットデット | 305 | 296 | △ 9 |
| ネットD/Eレシオ (倍) | 0.49 | 0.52 | + 0.03 |
| 親会社の所有者に帰属する持分 | 620 (606) | 573 | △ 47 (△33) |
| 親会社所有者帰属持分比率 (%) | 24.7 (23.4) | 22.4 | △ 2.3 (△0.9) |

※ ()内の数値は、IFRS第16号「リース」の影響を加味した数値

2020年3月期2Q決算 キャッシュ・フローサマリー

- 減価償却費が増加したこと、運転資金が改善したことなどから、営業キャッシュ・フローは収入が増加
- M&A投資がなかったことなどから、投資キャッシュ・フローは支出が減少
- 新株発行の収入がなかったことなどから、財務キャッシュ・フローは支出が増加

(億円)

| | '19/3期2Q | '20/3期2Q | 増減 |
|---|----------|--------------|---------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 117 | 143 (129) | + 26 (+12) |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 122 | △ 92 | + 30 |
| フリー・キャッシュ・フロー (営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー) | △ 6 | 51 (36) | + 57 (+43) |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 63 | △ 11 (4) | △ 74 (△59) |
| 合計 | 57 | 40 | △ 17 |

※ () 内の数値は、IFRS第16号「リース」の影響を控除した数値

1. 2020年3月期2Q決算概況

2. 2020年3月期 通期業績予想

3. 主な取り組み

2020年3月期 通期業績予想

- 2Q累計期間は、売上収益は想定通り、営業利益は想定を上回る実績
- 3Q以降は、AM分野でアフターマーケット事業の国内市場で引き続き好調な販売、PS分野及びMS分野において販売増を見込むが、AM分野OEM事業における中国景気悪化やデバイス市場縮小の影響などのリスクが見込まれることから、通期連結業績予想の修正は行わない

(億円)

| | '19/3期 実績 | '20/3期 予想 | 増減 |
|------------------|--------------|--------------|-----|
| 売上収益 | 3,076 | 3,100 | +24 |
| 営業利益 | 73 | 74 | +1 |
| 税引前利益 | 64 | 65 | +1 |
| 親会社の所有者に帰属する当期利益 | 38 | 40 | +2 |

| | | '19/3期実績 | '20/3期想定 |
|---------|------|----------|----------|
| 損益為替レート | 1米ドル | 111円 | 113円 |
| | 1ユーロ | 128円 | 128円 |

1. 2020年3月期2Q決算概況

2. 2020年3月期 通期業績予想

3. 主な取り組み

中国関連問題、韓国輸出規制、消費増税による影響について

■ 中国の景気悪化及び米中貿易摩擦による影響

- 中国の景気は期初の想定以上に減速しており、AM分野のJKHL（旧シンワ）において損益が悪化。AM分野の他の事業及び他の分野への影響は軽微だが、この傾向は今年度は継続する見込み
- 对中国追加関税が当面回避されたことで、今期の追加関税による損益影響は軽微となる見込み

■ 韓国輸出規制による影響

- 部品調達面で問題は発生しておらず、影響はほぼない見込み

■ 消費増税による影響

- 10月に若干の影響はあるものの年間では大きな影響は見込んでいない

ドライブレコーダーの全方位展開

- アフターマーケット、OEM、テレマティクスの全方位展開により国内ドライブレコーダー市場でNo.1メーカーのポジション獲得
- ライン純正装着の採用と通信型ドライブレコーダーを使ったソリューション・サービス提供の拡大を実現し、更なる発展を目指す

アフターマーケット

KENWOOD



JVC



OEM



テレマティクス



進化するドライブレコーダー

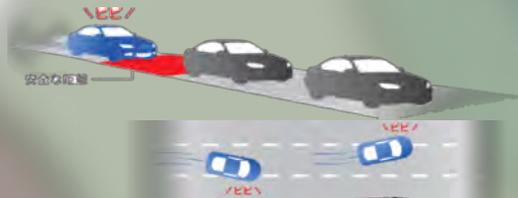


テレマティクス
安全運転サポート/サービス

CASE



運転支援



映像記録



640x480
ピクセル録画



モニター装備モデル
登場



Full HD映像記録
1920x1080ピクセル録画
Gセンサー内蔵
GPS内蔵



2034x1296ピクセル録画
運転支援機能搭載

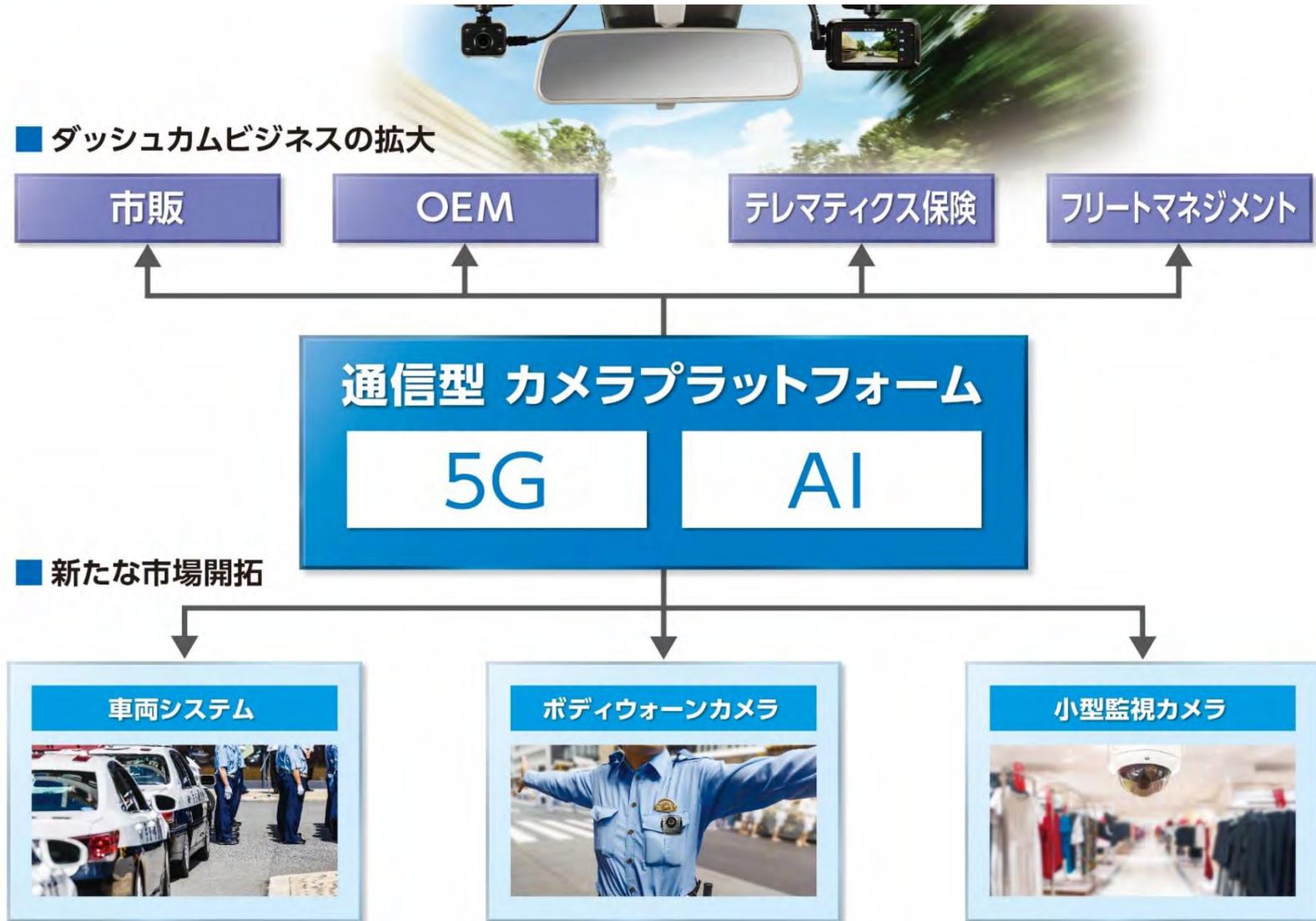
2003年 2005年 2010年 2014年 2019年 2020年以降

JVCケンウッド市場参入



ダッシュカム戦略 – 技術開発

■ 5G通信／エッジAIに対応したプラットフォーム開発



AM分野 アフターマーケット（日本）

- 車の後方などを撮影できる2カメラタイプのドライブレコーダー「DRV-MR745」を11月より発売、市場の急速な拡大に対応してラインアップを強化
 - リアガラスがスモークガラスの車でも、後方からのあおり運転や追突事故などの状況を明るく鮮明な映像で記録できる「スモーク シースルー機能」を新たに搭載
- 1カメラドライブレコーダーの新ラインアップとして「DRV-650」「DRV-W650」を11月より発売、さらなるシェア拡大を図る
 - 暗さに強い画像センサー「STARVIS™」を採用、夜間の暗いシーンやトンネルの出入り口などでも鮮明な録画が可能



後方も明るく鮮明な映像で記録できる
2カメラタイプドライブレコーダー「DRV-MR745」



夜間やトンネルの出入り口などでも鮮明な録画が可能な
ドライブレコーダー「DRV-650/W650」

AM分野 アフターマーケット（米州）

- ドライブレコーダー及びリアカメラの categorie で米国ベストバイ社の定番を獲得、全800店舗へ展開
 - パソコンやスマートフォンと接続可能なWi-Fi接続や複数台の車で使用できる脱着機能など、米国市場のニーズに合致した仕様で投入
- 米国での本格展開を皮切りに、欧州やアジアなど海外での事業拡大を加速



4K対応「DRV-A601W」



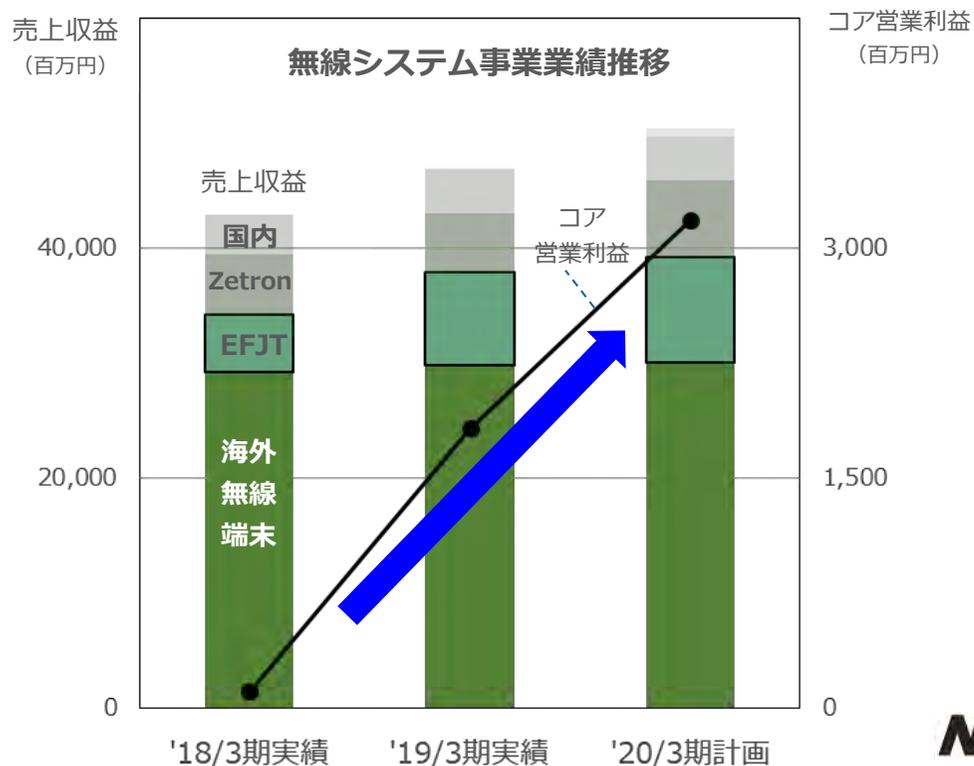
リアカメラ「KCA-R200」



便利な脱着機能

PS分野 無線システム事業

- 米国無線子会社EFJTの増収及び黒字化定着やTプロでの総原価改革などが奏功し、無線システム事業は今期大幅増益を見込む



- 好評の「NX-5000シリーズ」「NX-3000シリーズ」に続き、業務用デジタル無線機「NX-1000シリーズ」を発売
 - 共通プラットフォームにより収益性を改善
 - デジタル無線フォーマット「NXDN」と「DMR」に対応のマルチプロトコルタイプ。工場、ホテルなどの民間企業や公共サービス市場での拡販を図る



NXDN™ **DMR**

PS分野 無線システム事業 国内無線

- 世界的スポーツイベント向けレンタル機需要増等によるデジタル簡易無線機の販売拡大、及び地方自治体向け防災無線機が堅調に推移
- 石油化学プラントを始めとする、爆発や火災の危険性のある環境下でも使用可能な本質安全防爆構造を持つ業務用無線機を12月に市場導入
- 2022年末に迫る簡易無線のUHF帯アナログ停波によるデジタル移行需要に対応



デジタル簡易無線機
TCP-D751CT



車携帯型防災無線機
TCP-D609DP



本質安全防爆無線機
NX-330EX

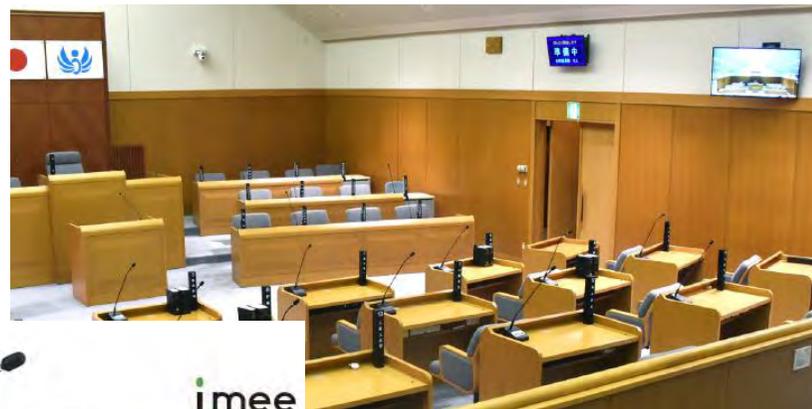
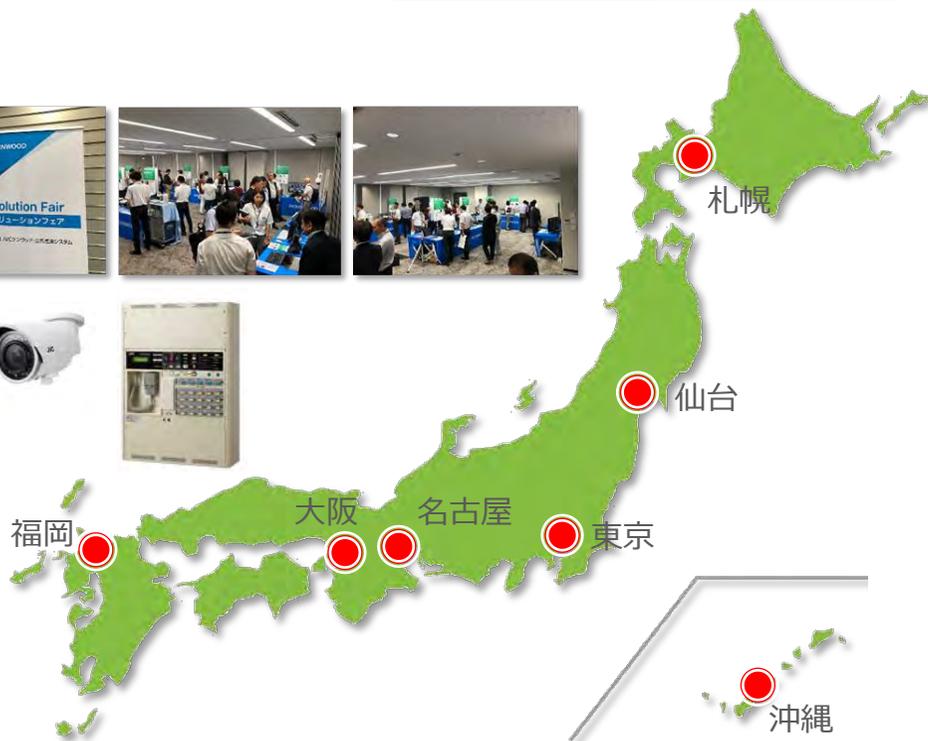
PS分野 業務用システム事業

- 全国7主要都市でソリューション内覧会を開催、2,000名以上の来場者数を実現し下期以降の受注拡大に期待
- 都道府県や市区町村の議会などから、円滑な議会運営をサポートするフルデジタル会議システムの受注拡大

JVCKENWOOD
SOLUTION FAIR 2019

ソリューション内覧会 2019

社会の「安全」と「安心」を支え、お客様のビジネス課題解決をご提案



効率的な会議進行・議会運営を実現するフルデジタル会議システム

- エクソソーム高精度計数システム「ExoCounter」を「BioJapan 2019」など内外の展博に出展し、普及促進



「BioJapan 2019」で
エクソソーム高精度計数システム「ExoCounter」の新モデルを展示

- 視線計測装置「Gazefinder」による認知症の早期診断に向けた認知機能検査技術について大阪大学と共同開発、社会実装を目指す

- 認知症の急増は全世界で社会問題化
全世界の患者数は2015年の4,680万人から
2030年には7,470万人に増加と推測※



<計測イメージ>

※World Alzheimer Report 2015

MS分野 メディア事業

- “高画質、高品質でつながる”コンセプトの“CONNECTED CAM”第一弾「GY-HC900」がCCDS※からIoT機器のセキュリティ要件サーティフィケーションマークを第1号として取得
- IBC 2019でも好評な“CONNECTED CAM”第二弾「GY-HC550/500」を下期に発売
- リビングでも高画質4K映像が楽しめる4K/HDR対応ホームプロジェクター「LX-NZ3」を下期に発売
 - 高精細映像を手軽に楽しめる新ラインアップで、ホームプロジェクターによる大画面映像の魅力を提案



取得第1号となった「GY-HC900」

※CCDS：一般社団法人 重要生活機器連携セキュリティ協議会



高精細映像を手軽に楽しめる「LX-NZ3」

MS分野 メディア事業

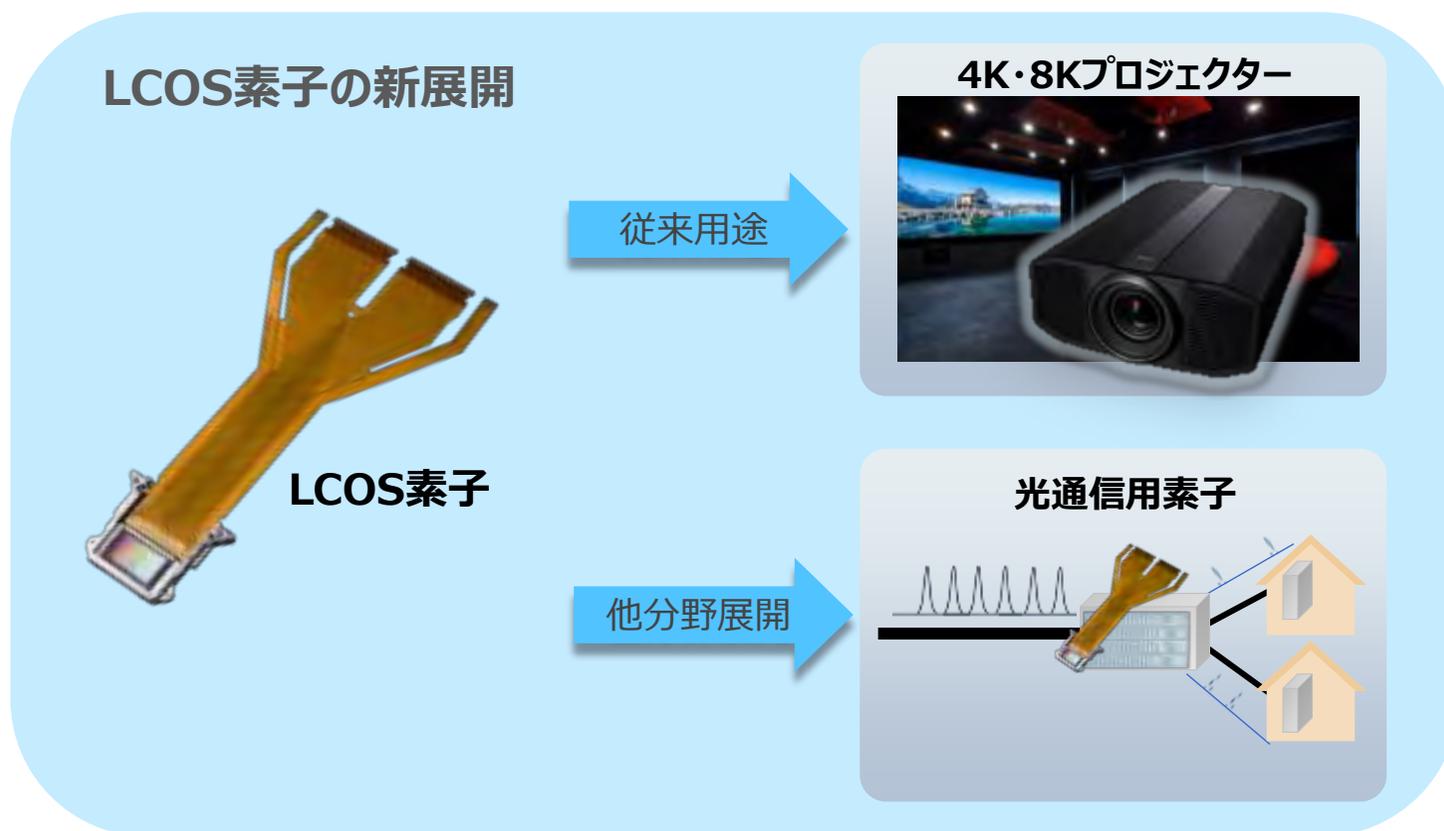
- 北米を中心に多くの販売実績を持つJackery社との共同開発により、バッテリー容量が異なるポータブル電源3モデルを10月に新発売
 - アウトドアレジャーの普及や防災意識の高まりに伴い、新商材投入で市場参入
 - カー用品店防災コーナー等でも展開



屋外や停電などの万が一の時でも、
安心して自由にたっぷり電気を使えるポータブル電源3モデル

MS分野 メディア事業

- プロジェクター向けに生産してきたLCOS※素子の新たな用途展開を進め、5G普及で需要拡大する光通信用素子として拡販
- 映像デバイス事業の売上拡大および収益大幅改善



※LCOS : Liquid Crystal on Silicon

MS分野 エンタテインメント事業

■ ゲーム事業参入

2019年6月発足のビクターエンタテインメント・ゲームズ
による第1弾作品（アプリゲーム）

「THE KING OF FIGHTERS for GIRLS」
を下期投入



「THE KING OF FIGHTERS for GIRLS」

■ 下期の期待作品

- 木村拓哉「Go with the Flow」【アルバム】（2020年1月）
- サザンオールスターズ「LIVE TOUR 2019
“キミは見てくれが悪いんだから、アホ丸出しで
マイクを握ってる!!” だと!? ふざけるな!!!”
【BD/DVD】（11月）
- 星野源「Same Thing」【配信のみ】（10月）



「Same Thing」



「LIVE TOUR 2019
“キミは見てくれが悪いんだから、アホ丸出しで
マイクを握ってる!!” だと!? ふざけるな!!!”

DXビジネス

- 三井住友海上のフリート契約向けドライブレコーダー・テレマティクスサービス「Fードラ」に通信型ドライブレコーダーを供給。損害保険業界として初となる車室内撮影に対応する2カメラモデルとして展開（2020年1月より）
- あいおいニッセイ同和損保が2020年1月に開始する「運転特性に応じて保険料が増減する自動車保険（PHYD）」に通信型ドライブレコーダーを供給

F ドラ



通信型ドライブレコーダー（イメージ）



「Fードラ」の事故緊急通報機能

JVCKENWOOD

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1) 主要市場（日本、米州、欧州およびアジアなど）の経済状況および製品需給の急激な変動、(2) 国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3) ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4) 資本市場における相場の大幅な変動、(5) 急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。